

令和5年度 大野町立北小学校通信



# 輝くひとみ

10月号

## 『高まり、支え合う北小』

運動会が目前に迫ってきました。子どもたちは「本気～心を合わせて自分の全力を出しきる」のスローガンのもと、自分のやるべきことに全力で取り組み、仲間の姿に学び、仲間とともに高まろうと声を掛け合って活動しています。特に、「運動会を通して、日常の姿を高めていこう」を合言葉に、児童会中心に「授業前後の大きな声でのあいさつ」と「授業開始や掃除の時間を守る」取組を続けてきました。その他にも、6年生の団リーダーが自分たちで応援練習を進め、下学年にやさしく教えたり、はきはきと指示をしたりする姿は、とても頼もしく全校のよい手本となっています。また、5年生の団リーダーが4年生に声をかけ、朝の会で2学年が合同で運動会の歌「ゴーゴー」を練習しながら、ポイントを教える姿には微笑ましいものがあります。

そんな高学年の姿を手本に全校の子どもたちが、様々なことに立ち向かい、自分のよさを精一杯発揮しようとする姿、困ったときには仲間と相談して前に進むようとする姿などに成長を感じています。

運動会当日は、ぜひ、子どもたちの頑張りに大きな声援をお願いいたします。

さて、明後日からは10月に入ります。今年もこの暑さはいつまで続くのだろうと思うほどの酷暑でしたが、さすがに秋らしくなり、朝夕は涼しくなって休み時間も運動場で思いっきり遊ぶ姿が増えてきました。

秋は昔から「読書の秋」とか「スポーツの秋」と言われ、勉強や運動に集中しやすいと言われていています。毎日、各教室を見回っていますが、運動会練習期間中であっても、とても落ち着いて学習に取り組んでいます。4月、5月初めに比べ、先生や仲間の話をしっかり聞いたり、集中して目の前の問題に取り組んだりする子が増え、子どもたちの成長がとてもよく分かります。

しかし、課題もあります。それは、「自分の考えを話すこと」です。授業における「考えを話す」とは、算数や理科であれば根拠を明らかにしたり、筋道立てて話したりすることにあたります。国語や社会であれば、物語（本文）や資料に基づいて話すことにあたります。もちろん、発言できている人も学級の中に何人かいますが、限られた人のように感じます。個人差や発達段階はありますが、どの子にも考えをもつためのヒントや時間が保障され、自分の考えを話すチャンスがあり、自らの力を伸ばしていくことはとても大切です。

すべての子が自分の考えを話してみたいと思えば、仲間の発言を自分の考えと比べながら聞くという、相乗効果が表れます。延いては、学習を通して仲間のよさを認識したり、自分の意見を受け入れてもらった充実感を味わったりと、人と人とのかかわりを学ぶ場ともなります。

10月は、しんけん授業「話す」に力を入れて取り組んでいきます。引き続き、子どもたちへの応援をよろしくお願ひします。

